



東京応化工業株式会社「統合レポート2024」

第三者検証 意見書

2025 年 7 月 17 日

東京応化工業株式会社

代表取締役 取締役社長 種市 順昭 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

石井 浩

■ 検証の目的

レスポンシブル・ケア報告書検証は、東京応化工業株式会社が作成した「統合レポート2024」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。なお、検証範囲は財務情報を除くものとします。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性および数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動およびCSR活動の評価
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・TOK技術革新センターにおいて、各サイト(事業所、工場など)から報告される数値の集計方法の合理性および数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者および報告書作成責任者に質問すること、ならびにそれぞれの責任者より資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・御殿場工場において、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性および数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者および報告書作成責任者へ質問すること、資料提示・説明を受けること、ならびに証拠物件と照合することにより行いました。
- ・数値および数値以外の記載情報の調査については、サンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性および数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社および御殿場工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・データ集計システムの活用と担当者間の相互確認で、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さに関し、若干の指摘をしましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンシブル・ケア(RC)活動及びCSR活動の評価について
 - ・グループの多様なリスクに包括的/専門的に対処する ERM 部が新設され、経営層や各本部と対応することを評価します。
 - ・「労働安全非常事態宣言」を発令し取り組むとともに、環境・労働安全衛生の統括部門(EHS 部)に労働安全施策を統括する部署である「労働安全マネジメント課」が新設され、活動を始めていることを高く評価します。今後、各拠点間の横のつながりの強化、現場主導・現場自律の運営を促進され、労働災害の低減に貢献していくことを期待します。
 - ・全従業員がアクセス可能な「TOK グループポータル労働安全」では、実際に起こった労働災害(転倒・薬傷)を写真や動画で教材化し、リアリティある学習環境を強化していることを評価します。
 - ・カーボンニュートラルに向けた CO₂排出削減対策として、老朽化したガスボイラーから電気チラーボイラーへの転換、社用車のハイブリッド化、フォークリフトの電動化、照明器具の LED 化など確実に取り組みを進めていることを評価します。
 - ・DX を経営戦略と位置づけて、御殿場工場では活動チームを立ち上げ、生産活動における情報伝達の効率化や関係部門との情報共有化、データ入力作業の効率化ならびに KYT 等安全を含めた DX 推進活動を開始していることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・今回の統合報告書は、ホームページや有価証券報告書等と重複記載されていた事項の割愛や図表構成の見直しなど、情報量と質をバランス良く維持しながら、昨年の 138 頁から 100 頁強と大幅にスリム化されています。
 - ・世界の最先端で勝ち続けるために活躍している若手マネージャー5 人が、「経営理念」の実践と「幸福度」について語る従業員ダイアログ特集記事が組み込まれています。

以上